

知事記者会見の概要

日 時：令和3年4月28日(水) 10:00～10:41

場 所：502会議室

出席者：知事、総務部長、広報広聴推進課長

出席記者：15名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、代表・フリー質問に知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

代表質問

- (1) 県と鶴岡市の合同要請について

フリー質問

- (1) 新型コロナウイルス感染症への対応について
- (2) 最上学園虐待事案に関する要望への対応について
- (3) 秋田県側の鳥海ブルーラインについて

< 幹事社：読売・日経・YTS >

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。明日から大型連休が始まります。大変申し訳ありませんが、県外の皆様には、この大型連休の間、山形県においでになるのをご遠慮いただきたいと思っております。また、県民の皆様はじめ、県内に住んでおられる皆様には、県外に出ないようお願いをしたいというふうに思っております。お仕事や帰省といったこともありますけれども、できる限りオンラインを活用していただければというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

さて、新型コロナの状況について申し上げます。

県内の新規感染者数は、昨日までで累計1,467人となりました。明日から大型連休が始まり、人の流れが多くなる、そういうシーズンであります。

県内でも変異株の感染が複数確認されておりますが、これ以上の変異株の感染の増加を防ぐためには、県境をまたぐ移動を控えていただき、マスクを外した会話・会食・カラオケなどの感染リスクの高い行動を慎んでいただくことが重要であります。

また、鶴岡市では、高校生を中心に感染が拡大しております。医療提供体制のひっ迫が懸念されますので、鶴岡市と合同で、鶴岡市民の皆様に対して、不要不急の外出を控えていただくことや、中学校や高等学校での部活動は、他校との交流・合宿を控えていただくことなどを要請したところであります。

県内での感染はですね、3月下旬に比べては減少傾向になってきたというふうに思っておりますけれども、今後どうなるかはちょっと定かではありません。また、全国的には感染の再拡大が続いておりまして、本当に予断を許さない状況だというふうに捉えております。

県民の皆様には、改めて正しいマスクの着用、こまめな手洗い、そして消毒、また三密回避、こういった基本的な感染防止対策をしっかりと守って、徹底してくださるようお願いしたいというふうに思っております。三種の神器という言葉ありましたけど、私は、マスク・手洗い・消毒・三密回避、これ四種の神器ではないかと思っております。この四種の神器をしっかりと守って、このコロナの危機を県民の皆さんと一緒に乗り切っていきたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

私からは以上でございます。

☆代表質問

記者

YTSの清水です。よろしくお願いいたします。先日あった、県と鶴岡市の合同要請について2点伺います。まず鶴岡市で、県民の行動抑制されることになると思うのですが、そこで影響を受ける飲食店等への支援を行う予定があるかどうかをお願いします。そして、もう1つなのですが、「県民泊まってお出かけキャンペーン」は、この鶴岡市については、適用の見直

しなどがあるかどうか、その2点お願いします。

知事

はい、わかりました。まず1点目でありますけれども、鶴岡市では、高校生を中心として感染が拡大しており、医療提供体制のひっ迫が懸念されることから、鶴岡市と合同で、鶴岡市民の皆様に対して、不要不急の外出を控えていただくことや、中学校や高等学校での部活動において、他校との交流や合宿を控えていただくことなどを要請したところであります。

まずは、この度のこの合同要請の効果をしっかりと見極める必要があると考えております。そして、そのうえで、鶴岡市における感染状況や、今後の状況や飲食店等の事業者への影響等を把握しながら、鶴岡市さんと一緒になって考えていきたいというふうに思っております。

それから2点目のキャンペーンの話でありますけれども、このたび鶴岡市長と合同で要請しましたのは、鶴岡市民の皆様に対する感染防止対策の徹底と行動への注意喚起であります。緊急事態宣言には至っておらず、休業要請もしていないという状況でございますので、現時点において、「県民泊まってお出かけキャンペーン～やまがた春旅～」について、鶴岡市への適用中止ということをごすね、現時点では考えていないところでございます。今後しっかりと、やはり状況を見極めながら考えていくことになろうかと思っております。

☆フリー質問

記者

NHKの藤井です。今後ワクチン接種進んでいくと思うのですが、緊急事態宣言の発出のですね、基準というのは、そういったワクチン接種が進んでいっても今と変わらないですか。それとも、そういった基準については、柔軟に変更していこうというか、そういったことを検討する考えありますでしょうか。

知事

独自の緊急事態宣言のほうですね。はい、わかりました。ワクチン接種が始まっておりますけれども、これから本格化するという段階だと思っております。もちろん現時点では変わらないのですが、たとえば高齢者の皆さんへのワクチン接種が滞りなく完了するとかですね、そういった状況になれば、また総合的に判断するというようなことで、そういった要素も含めて考えることになるかもしれないというふうに思っております。現時点では変わっていないというのがお答えでありますけれども、これから進むに従ってやはり、柔軟にやはりそういった要素も加えて総合的に判断することになるのではないかと思っております。

記者

はい。あと、新たな認証制度の件なのですが、飲食店や宿泊施設に対するですね。

これは大型連休前での制度の導入にはなったのですが、一日当たりの認証件数というか、チェックの件数というのはかなり少ないと思うので、あまり連休前には追いつかない状況だとは思いますが、そこについてはどのように考えているのかというのと、そういった認証というのが追いつかない中で、飲食店や宿泊施設の利用について県民に呼びかけることあれば教えてください。

知事

はい。今、県の認証制度が始まっておりますけれども、できる限り速やかにというのは、気持ちはありますけれども、飲食店の皆さんの都合もあったり、また県としての人員であったりというようなことで、今のところ、そんなに一日の数が多くはない状況にあると思います。今後ですね、職員だけではなくて、だんだんと外部に依頼するというようなことも考えながら、増やしていくということがやはり1つは大事なかなと思っています。そうやってできるだけ大型連休前には間に合いませんでしたけれども、まず始めるというようなことをいたしまして、飲食店、宿泊事業の皆様方にですね、しっかりとその感染防止対策を徹底しましょうという、そういう啓発というようなことにはなるかなと思っています。

今後、今記者さんおっしゃったように、もっと人員を増やす方向で、しっかりと県内全域で認証制度が進むようにしていきたいというふうに思っております。

記者

県庁だけじゃなくて、外部に依頼することも検討してということなんですね。

知事

はい、視野に入れていきたいというふうに思います。

記者

わかりました。あとですね、鶴岡でのクラスターの件なのですけれども、高校での発生でかなり感染者数増えていますけれども、これについては、今後そういった、高校とかですね、学校関係で県として対策すべきところとか、警戒すべき点、今後そういった同じような事例が起きないように考えなければいけないところとか、その辺あれば教えていただければと思います。

知事

はい。もちろんそういう方向も検討しなければなりませんけれども、まずは目の前の今現在起きている、鶴岡のある1つの高校でのクラスター、そこにしっかりと私どもは対応しなければならぬというふうに思っています。ここをしっかりと対策することで、何としても。私は実は今回のクラスター、メガクラスターになるというふうにちょっと懸念を

しておりますし、どれ位広がるか、広がらないようにしなきゃいけないということで合同要請というものを行ったわけなのですけれども、ここを止める、今回のこの学校クラスターを止めるということがすごく大きなことだと思っていますので、まずこの目の前の課題に対してしっかり取り組んで、そしてこれを検証と言いますか、この事を今後のですね、他の学校での対策・対応にしっかり生かしていきたいというふうに思っています。

記者

検証とおっしゃいましたけど、感染経路については、一部でもいいのでわかっていることあるでしょうか。

知事

はい。そもそもの、この学校の中の最初の、というところまではちょっとまだ行き着いていないと承知をしておりますけれども、医療統括監の話ですけれども、だいぶもう治りかけと言いますか、そういったくらいの生徒がいるというようなことも聞いていますので、無症状で知らないうちにどんどん広がって、学校の中でですね、部活動の中で広がっていた可能性があるように聞いておりますので、まだ全容解明にはまだ至ってなくて、ただとにかく今学校全体ですね、そこをしっかりと調査すると言いますか、検査するそのことに今全力を挙げていかなければいけないという、そういう時期でございます。

記者

コロナで亡くなった方が30人を超えたということで、亡くなった方ですとか、重症患者の年齢層ですとか傾向の情報、あと分析がどうなっているかお願いします。それと今後もうそういった亡くなった方ですとか、重症化の傾向について公表していくのか、お願いします。

知事

はい。まずもって新型コロナウイルス感染症でお亡くなりになられた方に対して、哀悼の意を表しますとともに、ご遺族の皆様にご心からお悔やみを申し上げます。

本当に残念なんですけれども、これまでに亡くなりになった方は累計で32人までなりましたし、それから重症となった方、累計で22人、現在は4人になっております。その多くは、60歳以上の方でございます。

お亡くなりになった方を見ますと、65歳以上の高齢者が9割を占めています。その中には、糖尿病や肝臓・腎臓などに疾患をお持ちの方や、高齢のため基礎体力や抵抗力が落ちておられた方もいると聞いています。また、重症化した患者さんを見ますと、65歳以上の高齢者が8割以上を占めております。お亡くなりになった方同様に、基礎疾患をお持ちの方や、基礎体力が落ちておられる方に重症に至るケースがみられるようございます。やはり高齢者の方が感染しますと、回復が遅くなったり入院期間が長くなると

いう、そういった傾向、また重症化リスクが高まるという傾向がみられます。

そのため、高齢者の皆様には、これまで以上に、正しいマスクの着用、こまめな手洗い、そういった基本的な感染防止対策にご留意をいただきたいというふうに思っています。あわせて、ご家族の方、職場の方など、普段高齢者と接する機会の多い方は、会食をできる限り控えていただくほか、感染防止対策を徹底していただきたいというふうに思っております。

また、本県にも感染力が強く重症化リスクの高い「N501Y」変異株が確認されております。「N501Y」変異株に感染しますと、本県ではまだないのですけれども、他県では高齢者でなくとも重症化した例が見られますので、すべての県民の方々になお一層の感染予防対策の徹底をお願いしたいというふうに思っております。

個々人のことを申し上げるという事で、個人のプライバシーへの配慮、それが非常に重要になってきます。また、これまでお亡くなりになった方のご家族のお考えということもありまして、なかなか公表には至らなかったことがございます。そこはご理解いただきたいというふうに思っております。ただ全体の傾向でありますとか特徴といったことを県民の皆様にご覧いただくということは、県民の皆様おひとりおひとりの注意喚起にもなるわけですので、これからは全体の傾向としてはこうです、というようなことは、申し上げて、お知らせしていきたいというふうに思っております。

記者

共同通信の阪口です。おつかれさまです。先ほどの鶴岡の件で伺いたいのですけれども、冒頭の質問にもありました通り、キャンペーンについては除外ということは今考えていらっしゃるということだったと思います。一方で高校生なんかには、部活であるとか学校生活下に制限を強いる中で、なかなかチグハグな対応じゃないかと思うのですけれども、たとえば、どういうふうに、不要不急の移動は控えてほしいというふうに呼びかけている中で、キャンペーン除外を考えられない理由というのはなんでなのでしょう。

知事

たとえばですね、緊急事態宣言を行った山形市そして寒河江市のことを思い起こしてみますと、やはり飲食店でありましたり、高齢者の施設でクラスターが発生したというようなことがございました。それで、社会の広範囲にわたっていたというようなことがあるのですけれども、今回はですね、現時点では、学校というところでクラスターが発生しております。時間が経過して、このまま何もしないでいけば、学校からご家庭、そしてその職場といった方向に感染が拡大するということが考えられるわけなのですけれども、今の時点でやはり学校とご家族というようなところで、できる限り感染拡大を、ここで抑え込みたいという思いがあります。ですから、今も鶴岡市さんと一緒になって検討中でありまして、学校活動でありましたり、学校の休業をどうするかとかですね、そういったことに

なるかと思うのですけれども、ちょうど今そういうところになっていますので、山形や寒河江とはちょっと違う状況かなというふうに捉えているところです。できる限り学校とそのご家庭ぐらいのところまでとどめていければというふうに、現時点では考えていますので、現時点での対応を、キャンペーンまで中止するというふうには至っていないところです。

記者

その点で、要は鶴岡市には合同要請を出している中で、例えば他の市町村の方が鶴岡に行くことに関しては、まったく制限というか、「来ないでください」という要請にはなっていないかと思うんです。その辺、非常にわかりにくいと思うんですよね。あれを出されたことによってですね、鶴岡市に行っちゃいけないんじゃないかと思う県民の方はたくさんいらっしゃると思いますし、逆もしかりだと思うんですけれども、要はちゃんと感染対策をしていらっしゃる事業者のためにも、そこはわかりやすく交通整理をするべきだと思うんですけれども、そのあたり、何か知事からメッセージを発信されたりですね、改めて交通整理されるような予定はあるんでしょうか。

知事

はい。そうですね、諸々のことについて、今検討中であります。ですが、現時点で言えることは、感染防止対策、そのことを徹底しながら、移動するにしても宿泊するにしてもですね、そのことを徹底しながらおこなっていただきたいと、それはこれまでも申し上げてきたし、これからも申し上げていくことなのですけれども、そこがやはり鉄則になるかなというふうに思っています。ちょっとお答えにはなっていないですか。

記者

やっぱりダブルスタンダードのようにどうしても見えてしまう部分があると思うんです。

一方では、キャンペーンして、ゴールデンウィークは動いてください、と言ってる一方で、高校生には、一番敏感なところには動くなという指示、なるべく他校と交流するなという指示を出すというのは、なかなかやっぱり理解しづらい部分ではあると思うんです。

そこに対して何か鶴岡市の方が利用する場合にはどういうことを特に気をつけてほしいとかですね、逆もしかりですけれども、鶴岡に行く場合には別に安心して行ってほしいという呼び掛けをされるのか、何かそういった、本当にわかりやすくされることがこのキャンペーンの効果を最大化すると思うんですけれども、そのあたりいかがでしょうか。

知事

そうですね、本当に繰り返しになるんですけれども、学校の生徒さん、きょうだいや親御さんといったご家族、そういったところにですね、しっかりとメッセージは発したつもりではございますけれども、これからはしっかりと検査をして、できる限り幅広くに検査を

して、そして私は今の段階がやはり前の緊急事態宣言の時と違うというふうに捉えているんですね。合同要請というその手前の形の要請にしたんですね。それは先ほど来から話題になっている、その飲食店とか施設といったところではまだ感染が及んでいないということでもありますので、学校とご家庭ぐらにとどめることになるのが一番望ましいということで、現時点での判断ではそのようにいたしました。

そこはわかっただけだと思うのですが、鶴岡市以外の方のことだというふうに思いますけれども、やはり移動されるにしても宿泊するにしても、しっかりと基本的な感染対策を守っていただきながらということは申し上げたいというふうに思っています。

さっきの鶴岡市民の皆様の方の対策ということで言うと、やはり学校、その高校はもう今休校になっているということでもありますし、あと学校とか学校関係者の方は検査ということになると思いますし、親御さんたちの検査ということにもなるかと思えますし、また、その親御さんのお勤めになっている職場では、私はまだ確認はしておりませんが、すでにおそらくお仕事はお休みというような形に、自宅待機というのですかね、そういったことになっているのではないかと思いますので、そういったいろいろなことをやって、そこでできる限りとどめるということが大事かなというふうに思っているところです。

もちろんこれから感染拡大、ほかの領域にも拡大していけばそこはもう、やはり次のステージになるかというふうに思っています。現時点ではそういう判断でございます。

記者

ちょっとわかりやすくすると、鶴岡市の方にキャンペーンは、たとえばほかの鶴岡以外の34市町村の方と同様に使っていいということなのか、それとも鶴岡の人はより慎重にしてくださいということなのか、今回メッセージを出されている上でどのようにお考えなんですか。

知事

そうですね、鶴岡市の市民の皆様には合同要請をいたしましたので、市民の皆様には他の34市町村と同様ではなく、そこはやはり慎重にというようなことになろうかというふうに思います。

記者

ありがとうございます。もう1点、新型コロナウイルスのワクチン接種に関連してなんですけれども、政府が東京の大手町で自衛隊によるコロナの大規模なワクチンセンターを設置する、5月24日から3か月運用するような方針を示されました。大阪でも同様のセンターを作るというふうになっていると思うのですが、先週、会見でワクチンを大都市に優先的に配置するような考え方についてどうかという問いに対して、知事は、高齢者はこちらでは多くてですね、重症化リスクが高くて、一概に高齢者が多いところからというふ

うにはならないんじゃないかというようなことをおっしゃっていました。

本県でもかなり医療の状況がですね、ワクチンを打つ人が少なかったりという状況もあるという中で、東京、首都圏、大阪に限ってこういったセンターを設置されることについて、知事はどういうふうにお考えでしょうか。

知事

はい。本当に東京・大阪は人口が大変多いですから、こういった方法もあるのかなというふうには捉えています。

ただ、だからといって地方にワクチンが遅く配分になるというようなことにはならないように願いたいというふうに思っていますし、今のところ、7月中にはとにかく高齢者のワクチン接種をしっかりと終了させるようにというような方向で、政府としても地方と一緒に進めたいというふうにおっしゃっておられると承知しておりますので、やはり地方としても予定通りしっかりと進めていきたいというふうに思っています。ただ、配分だけしっかりとしてくださいというふうに申し上げたいと思います。

記者

ある意味、山形は東根にも駐屯地があったりして、自衛隊の方もたくさんいらっしゃると思うんですけども、それをある意味大都市にのみ使うということについて、何か人的資源、医療資源が乏しい山形として何かコメントはありますでしょうか。

知事

そうですね、やはり自衛隊は国難に際しては、機動的にまた柔軟に動いていただくのが大事だと思っておりますので、そこに対してまでどうこう申し上げることはないですね。

ただ、県内で非常に医療体制が薄いところもございますので、そこについては総合支庁ごとにしっかりと広域連携体制を組んでいくというようなことも聞いておりますので、県内のことは県内でできる限りのことを総合調整して、順調にワクチン接種が進むようにしていきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。

記者

さくらんぼテレビの白田です。先ほどの鶴岡市の学校への対応の中で、知事は、休業という言葉をおっしゃっていたと思うんですけども、これは鶴岡市内の学校の臨時休校を検討されているということでしょうか。

知事

はい、まだ確かなことは申し上げられませんが、そういったことも相談されるというようなことも聞こえてきておりますので、これから検討・協議になるんだというふうに思います。

記者

そういった声というのは、具体的に。

知事

まだちょっと申し上げられないのですけれども、そういった声が鶴岡市のほうで上がっているというようなことが私のほうにも聞こえてきました。それでと言いますか、本当に今日のことでありますので、まだはっきりと皆さんの前で申し上げるような段階ではないのですけれども、まずできる限り早く、今日中にいろんなことを検討することになるのかなというぐらいに申し上げるしかないのですけれども、ちょっと時間をくださいということです。わかりましたら、皆さんに早くお知らせします。

記者

まさに学校が舞台となっていますけれども、現段階では対外活動を自粛してほしいという段階ですけれども、部活動自体を休止するという選択もあると思うんですけれども、まさにゴールデンウィークは部活動、対外活動しないとはいえ、盛んに行われる時期だと思います。その部活動自体の休止は求めませんか。

知事

はい、それも含めてやはりこれから協議・検討になると思います。

記者

すいません、別件なんですけれども、成人式についてなんですけれども。首都圏に緊急事態宣言が出されたことで、山形市を含め県外からの参加を見送るという動きが広がっています。このことについて、知事はどのように受け止めていますか。

知事

はい。本当に4都府県で緊急事態宣言が発令されていたりですね、あと、まん延防止等重点措置、これも7県でしたかね、本当に全国的に再拡大となっている状況では致し方ないのかなというふうに思っています。

やはり、首都圏、県外におられる県出身のですね、成人式を迎えられる方々には大変申し訳なく思いますけれども、残念だというふうにもお考えだと思いますが、やはりふるさ

とを守る、そして大切なご家族、高齢者の方もたくさんおられると思いますので、そういった人たちの命を守るということにもなりますので、今回本当にこういった状況でございますから、本当にオンラインというようなこともご活用いただきながら我慢していただければなというふうに思っているところです。

記者

ただ、先週、知事はですね、成人式は対策すれば来てもいいのでは、というふうな発言をされてきました。先週もすでにまん延防止等重点措置は行われていて、感染拡大は広がっている中だったと思うんですけども、成人式の開催については市町村の判断とはいえ、県外から多くの人が来ることに対して、県も食い止めるというか、今回は自粛してくださいというふうな対応も取れたと思うんですけども、ただ、先週、知事は「成人式はいいですよ」というふうにおっしゃっていました。

知事

「いいですよ」とは申し上げていなくて、例えば「山形市さんが県外からも」というようなことでご質問にあったかと思うのですけれども、「何百人という単位でということはどうですか」と質問をされた時に、対策をしっかり取るのだというふうにお聞きをしていたものですから、「そういった対策を取られるということであれば」とかですね、「ただ、市長さんに聞いてみたいと思います」というようなお答えをしたかと記憶をしておりますけれども、そのあと私から「こういう時期にどうでしょうかね」というようなことは、お電話で懸念しているということをお伝えしたところでした。そういった経緯がございます。

市長さんのほうでもやはりお考えになっていた時と、そして現在の状況ですね、もう違ってきているのでということで、いろいろと検討し直されたということも聞いておりますので、やはり皆さん感染の状況ということをしつかりと見極めながら、そのような対策を立てても、というような時期もあったかもしれないけれども、やはりこの時点ではということでオンラインというように取られたんだというふうに思いますので、やはり時宜に合った方法でおやりになるということだろうというふうに思っています。

記者

最後に、あらためてなんですけども、その県外から参加を控えようという動きは、賢明な判断というお考えでしょうか。

知事

はい。私はこの時点ではそのように思っています。共同メッセージでも申し上げておりますし、あと市町村との連名でのメッセージの中でも、やはり帰省に入るかと思えます、そういったことは今回はお控えいただくように伝えてくださいというふうに申し上げてお

りますので、市町村のそういった判断は賢明な判断だというふうに私は受け止めております。

記者

山形新聞の佐藤と申します。よろしくお願いいたします。新庄市の県立最上学園の虐待を巡る問題で、県内12の福祉団体が、いわゆる虐待の事実が十分に明らかになっていないということで、県と県議会のほうにですね、全容解明を求める要望書を先日提出されましたけれども、改めて県内12の福祉団体が、こういった問題に対して連名で要望するというのは異例の事態なのかなというふうに思うんですが、知事としてこういった事態をどのように受け止めているか教えていただければと思います。

知事

はい。最上学園でいわゆる虐待事案と言われるような事案が発生したということについては、大変遺憾に思っておりますし、県民の皆様にご心配をおかけして大変申し訳ない、また子どもたち、ご家族の皆様に対しても大変申し訳なく思っております。

そしてその団体の皆様方からも大変ご心配をいただいて、再発防止、しっかりやってほしいというようなご要望も頂戴したということでもあります。

私としましては、あってはならない内容だと思っておりますので、しっかりと今後の再発防止に向けて第三者を含めての会を作ってですね、今後防止策を取っていくというようなこともしっかりと考えて、子どもたちが安心して生活できるようにというふうに考えております。

記者

ありがとうございます。あと、調査内容については、ある程度公表してほしいということで求めているようなのですが、その点については、知事、どのように考えていらっしゃいますでしょうか。

知事

はい、そうですね、担当のほうから聞きましたけれども、詳細なところまではまだわかりませんが、できる限り遡って調べたということを知っております。

どこまで公表できるかというようなことは、やはり、これもプライバシーというようなことも入ってくるとおられますので、どこまで公表できるかまではちょっと今の時点で私からは答えられないのですけれども、ただ、しっかりと再発防止には取り組むようにということは強く指示をいたしました。

記者

はい、ありがとうございます。

記者

河北新報の奥瀬です。よろしくお願いします。先週なんですけども、秋田県の佐竹知事が、ゴールデンウィーク中の県境の移動の自粛を求めるために、岩手と山形の観光道路の閉鎖の方針を示して、実際、山形のほうが除雪を理由に鳥海ブルーラインの開通の延期を決めたと思うんですけども、本当に理由として積雪が問題だったというのはあるかもしれないんですけども、この経緯としてはすごく先週ゴタゴタしたような印象があったんですけども、もし秋田の対応について吉村知事としてコメントがありましたらお願いします。

知事

はい。私が聞いておりますのは、鳥海ブルーラインの秋田側のほうがですね、雪崩の危険性があるというようなことで、まだ開通をしないというふうに聞いておりますので、そういう事情だということなので、工事とか危険性というようなことでは道路を止められますので、そうなのかということでは合点をしたところでございます。